

Monthly News on Astronomy from Nishi-Harima Astronomical Observatory

宇宙 **NOW** No.349 2019 4



黒田名誉顧問天文教育普及賞受賞記念特集号！

黒田さん 日本天文学会天文教育普及賞を受賞！

国際教育普及標準単位「Kuroda」と日食ツアー

黒田さんの手紙

黒田さん、おめでとうございます

天文を学ぶ楽しさをそのままに伝える

憧れの天文台で

黒田さんと西はりま天文台

知情一如

伊藤 洋一

福江 純

井上 毅

高柴 健一郎

時政 典孝

前野 将太

戸次 寿一

石田 俊人

黒田さん

日本天文学会天文教育普及賞を受賞！

伊藤 洋一

元西はりま天文台公園の園長で、現在は特別顧問を務められる黒田武彦さんが、日本天文学会から第一回（2018年度）天文教育普及賞を受賞されました。受賞理由などを日本天文学会のホームページから転載しましょう。

活動名：

国内外における長期的かつ広範な天文教育普及活動に対して

黒田武彦氏は、四半世紀にわたり、天文教育普及活動を幅広く繰り広げてこられた。西はりま天文台の開設（1990年；初代台長）や完成当時は世界最大の公開用望遠鏡であった「なゆた望遠鏡」の建設（2004年）はもちろんのこと、公開天文台の全国的組織としての「日本公開天文台協会」の設立（2005年；初代会長）への貢献、サイエンスツアー「ひょうごは大きな博物館」（1998年～2008年）や「サイエンスカフェはりま」（2008年～）など地域における種々の普及啓発活動の実施、音楽コンサートや詩の朗読など文化芸術活動と天文普及活動のコラボレーションなど、その活動は広範かつ多岐にわたり、はりま地域だけでなく、全国の多くの同様の施設でのロールモデルを打ち立ててきた。さらに黒田氏の活動は国内に留まらず、南米ペルーでの天文教育普及活動に対しても多大な支援を行ってきた。具体的には、ペルー政府の依頼でペルー国立教育天文台の開設に尽力

していた故石塚睦氏を支援するため、「ペルーへ天体望遠鏡を贈る会」を結成し（1999年）、天文関係者以外にも故小松左京氏ら広く著名人の賛同も得て、ペルーへ60cm望遠鏡を寄贈する事業を実現した（2014年）。このような活動を手がけ、実を結ばせるには黒田氏が中心になって構築された幅広い人的ネットワークが重要な役割を果たしたが、そのネットワークが現在も天文学の普及教育に大きく貢献している。上記の多くの活動は、西はりま天文台の職員さらに後には兵庫県立大学の教員の職分をはるかに超える教育普及活動である。以上の理由から、黒田武彦氏に2018年度日本天文学会天文教育普及賞を授与する。

この受賞を祝して、黒田さんとの関わりが特に深かった方々から、特別に記事を寄稿していただきました。黒田さんは多方面に渡り多くの人と深い関係を築いてきたので、「何で私に書かせないんだ」と思われた方も多くいらっしゃると思います。ごめんなさい。

（いとうよういち・センター長）

国際教育普及標準単位 「Kuroda」と日食ツアー

福江 純

国際度量衡学会ではまだ策定されていないようだが、30年ぐらいまえに、Kurodaという単位を提案したことがある。黒田さんが行っているレベルの天文教育普及量がだいたい1Kurodaとなる。黒田さんの影響を受けて、ぼくも多少は天文教育普及活動をし始めてはいたが、当時の自己評価は、まだ0.01Kurodaぐらいだった(;;)。

さて、黒田さんとの付き合いは1983年まで遡るので、もう37年にもなる。まだ大学院生(正確には日本学術振興会奨励研究員)の身分だったが、電気科学館での講演を依頼されたのだ。メールなどない時代で、大学の事務室に電話が掛かってきた。『天文月報』の4月号に掲載された、ぼくの初めての解説記事「アクリーション・ディスク・ストーリーズ」を読まれて、降着円盤という新天体の話をして欲しいと頼まれたのだ。随分と準備をして臨んだつもりだが、初の一般向け講演は散々であったのは言うまでもない。学会講演に対して、一般向け講演の難しさを痛切に感じたのを覚えている。当日の夜は、黒田さん、加藤(賢一)さん、いまはなき菊岡(秀多)さんらと痛飲しながら、多くの話を聞いて、研究の世界とは別の世界があることを垣間見せてもらった。と同時に、“ああ、こんな人たちがいるんだ”と、天文教育普及で頑張っている皆さんに感動したのも鮮やかに覚えている。当時はアウトリーチもオープンキャンパスも影も形も言葉もない時代で、大学院生が教育普及の経験をするのはまずなく、その後の研究教育人生の道標ともなった初体験だった。ちなみに、最初に会ったときから、黒田さ

んは貫禄があってかなり年上ぽかったけど、よくよく計算してみると、当時ぼくが27,8歳だから、黒田さんはまだ30代後半だったはずで、これはこれで、いま書いててちょっとびっくり。

その翌年に大阪教育大学へ就職してからは、週末など大阪市内をあちこち飲み連れ歩いてもらった(もちろん奢り)。終電を逃して電気科学館のテーブルで寝たこともある。ケータイやメールはないので、まじで最初の(いまのところ最後の)無断外泊となった。

日本天文学会史『日本の天文学の百年』や、<天文宇宙検定>など、黒田さんと一緒にした仕事もあるが、一緒に遊んでもらった記憶の方が圧倒的に多い(笑)。1988年に近畿大学で開かれた日本天文学会を一緒に手伝ったときも、森本オヂサンや黒田さんたちと一緒に呑んでいた記憶の方が強い。同じころ、5,6人で、黒田さんが夢前に作っていた私設天文台へ遊びに行ったこともあったが、宿泊施設もあって、黒田さんのバイタリティにまたまた驚いたものだった。極めつけは、黒田さんが仕立てた“ふじ丸”で行った2009年の皆既日食ツアーだろう。人生が劇的に変わった船旅であった。福江家も家族総出でお祭りにして、“黒田本舗”なる怪しげな商店を立ち上げ、黒田さんの似顔絵はがきなどグッズ販売までして思いっきり遊ばせてもらった。



ふじ丸船上のウェルカムパーティ時(2009年7月20日)。森本オヂサンと海部先生と黒田さんの貴重なショット。黒田本舗の宣伝隊女子2人(左側が愚妻で右側が現次男嫁)のうち、当然若い方に3人とも鼻の下が伸びてたのを目の当たりにした!

黒田さんからの手紙

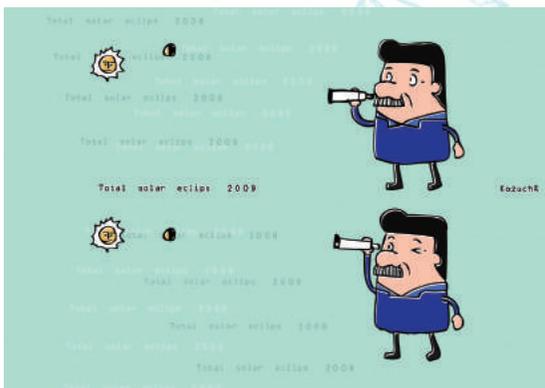
井上毅

黒田さんが定年後は、ますます一緒に遊んでもらう予定だったが、あいにくのこと、定年直前に倒れられた。黒田会を立ち上げたのは、黒田さんを支援するのが表向きの理由ではあったが、個人的には、黒田さんと（黒田さんで）遊ぶためでもあった。実際、黒田会を通じて、いろいろな方とさらに知り合いになれて、予想外に遊べたと思う。

黒田さんとの楽しい思い出ばかり浮かんで来て、肝心なことを書き忘れるところだった。今回は日本天文学会天文教育普及賞の第一回受賞おめでとうございます。ぼくも選考委員の一人で、もちろん公平を期して選考会議に臨むのだが、複数の推薦もあり、身最良する余地もなく、ダントツの受賞だった。むしろ第二回以降の選考が困りそうなぐらいだ（笑）。

さてさて、この40年近く、教育普及面は黒田さんを目標に頑張ってきたつもりだが、まあ、ピーク時で0.1Kurodaぐらいにはなったかな。相変わらず黒田さんにはまったく及ばない。もう少し努力を続けよう。

（ふくえ じゅん・大阪教育大学教授）



黒田本舗が販売した皆既日食ポストカードから黒田さん版の2種（1種は背景絵）。製作したのは当時は次男の彼女さんだった Kazucha さん。

黒田武彦さんが、日本天文学会第一回天文普及賞を受賞されました。おめでとうございます。ご家族の皆さま、西はりま天文台の関係の皆さま、友の会の皆さま、全宇宙の黒田ファンの皆さまにも嬉しいニュースと思います。心よりお慶び申し上げます。

黒田さんの功績については改めて述べるまでもありませんので、少し個人的な話を紹介します。私と黒田さんに最初の関わりは、1994年の夏のこと。シューメーカー・レヴィ第9彗星が木星に衝突した夏でした。当時、大学院生だった私は、木星に黒々とした痕跡を残した様子を望遠鏡で見て驚き、この価値を世の人たちに伝えることが私のやるべき仕事ではないかと思い、早速各地の天文施設に「天文台で働くにはどのような要件が必要ですか」という手紙を送りました。若かったと思います。現実はやや冷めたもので、役所的な回答がポツポツ届く中、西はりま天文台から丁寧な手紙が届きました。そこには「天文普及にかける思い、ご同慶の至りです。この夏から働けるならアルバイトとして採用できます。」とありました。手紙の最後に筆文字で黒田武彦と署名。この話は結局見送りましたが、「ご同慶の至りです」の言葉にはずいぶん勇気づけられ、大学院卒業後、天文普及の道を歩むことになりました。後に、黒田さんが大きなきっかけになった人がとても多いことを知りました。

1995年、愛知県の旭高原元気村というキャンプ場併設の小さな公開天文台で働き始めました。その年に岐阜県藤橋村で開催された「全国天体施設の会」に参加。同会は黒田さんの呼びかけで設立した会です。ここで、志を同じくする諸先輩方や仲間と知り合うことができました。

た。この会を通して得られるものはとても大きいものでした。私は、多くの仲間と同じく、黒田さんの狙いがずばり当たった人間の一人だとおもっています。

1997年から明石市立天文科学館で学芸員として奮闘の日々を過ごすことになりました。何かあると、住まいが姫路市のご近所ということもあり、森本雅樹さん(森本おじさん)も合流し、多くの人生訓を楽しく伝授いただきました。ただ、何を教わったかほとんど覚えていないのですが、楽しかった気分だけは覚えています(笑) そんなこんなで、数々の困難を乗り越えることができました。

黒田さんは日本公開天文台協会(JAPOS)の立ち上げにも尽力されました。(JAPOSについては、設立当時に事務局長として奮闘されていた森さんが急逝され、私が事務局長を引き継ぐ形になりました。生前に森さんに天文台の将来について熱く口説かれましたので、何とか頑張っています)

黒田さんは、こうした人の繋がりを作る場を大切にされてきました。2011年にスタートした「星なかまの集い~天文楽サミット~」の立ち上げも、黒田さんの提案がきっかけで、いつも楽しく星を見ている仲間たちが協力して実現したものです。回を重ねてすっかり定着しました。

明石の名物シゴセンジャーとブラック星博士もずいぶん応援していただきました。忘れられないのは2009年の世界天文年のオープニングイベント。ぐんま天文台で開催しましたが、明石からはシゴセンジャーとブラック星博士が式典を楽しく盛り上げる役目を仰せつかることに。かつてない緊張の中で滑り気味のショーでしたが、終了後、最前列の古在先生と海部先生が満面の笑みで「盛り上げてくれてありがとう!」と握手。会場がどっと沸きました。後で聞くと黒田さんが、事前に説明してくれていたらしく、みなさん楽しみにしてくれていたそうです。

私は2017年からは館長職につき、施設の長としての黒田さんの苦労と偉大さを改めて感じています。

個人的なことでも他にも書ききれないエピソードばかり。多くの方がこうしたエピソードをお持ちなのだと思います。黒田さんは多くの人々を乗せる船のような存在です。2012年に、黒田さんが脳梗塞で入院することになりましたが、その後懸命に奥様の介護を受けながらリハビリする姿にも感銘を受けています。これからもゆっくり養生されて、私たちの活動を応援していただけたらと思います。引き続きよろしくおねがいいたします。

(いのうえ たけし・明石市立天文科学館)



2009年の世界天文年エンディングイベント。

黒田さん おめでとうございます！

高柴 健一郎

西はりま天文台の黒田元園長は、天文教育普及というにもっともふさわしい方だと思います。私が今、星が好きですといえるのも黒田さんのおかげなので、そのあたりを記します。

1986年和歌山県の龍神温泉へ向かう途中、たまたまハレー彗星が来ているとのニュースを見て、ついでなら途中の護摩壇山でとなりました。初めて目にする彗星のすばらしさが目に焼き付きはなれませんでした。当時まったく趣味というものを持たなかった私は、職場へ行く途中にある大阪市立電気科学館で市民向けの土曜講座に目がとまりました。定時制高校の教員だったので出勤前に勉強するのも良いかと思ったのです。予定講座が終わった後、もう少し深めるにはどうすればの問いかけに応じていただいたのが黒田さんです。その場で、星の友の会に入会し、次の例会に参加しました。今の形式と変わらないものでしたが、例会終了後、いつも懇親会がありました。といっても、お菓子と飲み物で会員が雑談したり、学芸員の皆さんとお話しをするのです。もちろん黒田さんが中心になっていました。私は仕事もありますので、うしろ髪（当時はあったんですよ）を引かれる思いで職場に向かいました。友の会のロゴマークのコンペや、友の会の総会なども基本は会員相互で進めていくというのが黒田流でした。

その後、西はりま天文台に天文台長として移られ、やはり友の会も作るということで早速会員にさせていただき、会員 No. 27 の家族会員になりました。大阪が第三土曜なので、こちらは第二土曜というのも黒田さんならではの配慮でした。子どもたちが小さい間は家族ぐるみで例会に参加し、飯ごう炊飯や素麺流し、餅つき例

会など毎回会員相互が参加する工夫されたものでした。

91年にはメキシコとハワイへ大阪と共同で皆既日食観測ツアーを企画され夫婦で参加しました。94年にはチリへ行ったり、国内では野辺山、木曾などへ行く企画をやったり、トルコやマダガスカル、エジプトの日食へと続きます。その集大成がふじ丸で小笠原沖クルーズでした。黒田さんの呼びかけで、いろんな方々がスタッフで参加し、各地のグループが船上に集いました。朝の講演から演奏会、夜の観望会まで、休むところのない過密スケジュールで盛りだくさんすぎて参加できないという苦情までいただいたものです。

黒田さんは、回りの人を巻き込み、宇宙をキーワードに楽しく遊ぼうという精神を具現化されるヒトです。これからは、私たちが引き継ぎ、しっかりお返しします。

（たかしば けんいちろう・友の会会員）



天文を学ぶ楽しさを そのままに伝える

時政 典学

黒田さんから何度も聞いた心に残る言葉が二つあります。

ひとつは「星は私たちのふるさと」。この言葉、科学的に話せば「星の内部の核融合反応は、水素からヘリウム、そして様々な元素へ変わる。星の内部で起こるサイクルがこの世界のあらゆる元素を作り出す。」という説明になります。そこに黒田さんは、私たちと宇宙とのつながりを加えます。「私のこの肌は、体は、もとは星の中で作られたものなんだ」と気づくと、ぐっと宇宙が身近になります。

生命の宿命である「生」と「死」。私たちがこの世から去っても、体を作る分子や原子は宇宙を介してさまざまなものに形を変えます。穏やかな心地になれる。私は志なかばで天文教育の現場から離れましたが、今もこの言葉が心の支えとなっています。

もうひとつは「生きた教育のための研究」です。1990年代には多くの科学館や公開天文台が造られました。天文学を学べる大学も増えました。黒田さんは「新しい情報を伝えること、自分自身が天文を学んで楽しいと感じることが、お客さんを喜ばせることにつながる」と、増える天文教育施設で、より豊かな普及が行えるよう邁進しました。

私自身も、天文学に携わる多くの方に会い、楽しく仕事をすることができました。そして気づかぬうちに、新鮮な天文の知見を、学ぶ楽しさをそのままに、お客様へ伝えていました。この言葉は、多くの天文教育に携わる人を育てたばかりでなく、60cm 望遠鏡からスタートした西はりま天文台を、世界に名だたる施設へと導いたと考えます。

二つの言葉は、黒田さんが抱く天文教育のあり方なのではないかと思います。

しばらく前に姫路市で市民向けの天文講座と天体観察会が開かれました。私は観察の手伝いで赴きました。参加者の中に黒田さんの姿がありました。「お久しぶりです、お元気ですか」と声をかけました。聞くと、自宅から一人で電車で来られたそうです。黒田さんがかける天文への情熱に負けてはられないと、奮い立たされました。

(ときまさ のりたか・佐用町健康福祉課)

憧れの天文台で

前野 将太

天文教育普及賞のご受賞、おめでとうございます。黒田さんの長年にわたるご功労が評価されたことに、元職員として黒田さんの活動を近くで見えてきた私にとっても、これほどうれしいことはありません。ここでは、私が2012年までの4年半、西はりま天文台で過ごしたときの黒田さんの思い出の一部を紹介させていただきます。

私が初めて黒田さんとお会いしたのは嘱託研究員の採用試験の日でした。町役場内で行われた面接のあと、黒田さんが運転する車で西はりま天文台へ行き、なゆた望遠鏡を誇らしげに紹介される黒田さんの目の輝きは今でもはっきりと覚えています。「苦労したけど、職員みんなが頑張っってやっと完成したんだよ」と語られる姿も印象的でした。

人前では緊張する性格で、経験も少ない若い私にも講演や講義、会議などの責任ある仕事を多々任せていただきました。ただし、任せたままでなく、的確な助言や褒め言葉もかけるな

ど、仕事を通じて職員が成長する姿をしっかり見守って下さいました。表情が豊かで、職場でも笑顔で職員に接し、どんなに忙しいときでも作業の手を止めて、目をしっかり合わせて相談に乗っていただくなど、頼れるリーダーとして、お手本になることだらけでした。

そんな黒田さんの人柄なので、やはり周囲には人が集まります。エピソードはいくつもありますが、例えば、黒田さんが姫路市内で企画する観望会には大勢の友の会会員やはりま宇宙講座の受講者がスタッフとして参加し、大盛況となっていました。黒田さんの分かりやすく、ユーモア溢れる天文の話にスタッフも参加者も魅了されたと思います。

さて、国内には一般の人が覗ける望遠鏡が多くありますが、その中で口径2mを誇るなゆたは私たちに最も宇宙を身近に感じさせてくれる望遠鏡です。佐用の豊かな自然環境の中で、みんなが期待する以上の星空と天体の姿を見せてくれ、誰もが非日常を体験できることでしょう。立派な宿泊施設は個人だけでなく、学校などの団体も利用できます。天文台にはカップルのデートや家族の憩い、学校教育、生涯学習、そして、研究と求められるものは多様です。そのどれにも応えられるように施設や観測機器を整備、発展させ、また、職員の育成にも黒田さんは尽力されました。黒田さんから学んだことは一生の財産です。このたびの受賞に心からお祝い申し上げます。

(まえのしょうた・美星天文台)

黒田さんと 西はりま天文台 戸次 寿一

黒田台長（当時）に初めてお会いしたのは、1990年西はりま天文台公園友の会初回例会でした。100人ほどの例会参加者でしたので、当日お話しをする機会はほとんどありませんでした。しかしながら、とても忙しそうに動いておられるのに、一般のものにも分かりやすい丁寧な話し方だったことが印象に残っています。

開園当初西はりま天文台公園に行く目的は、暗い空で星が眺められれば良いと思っていただけでしたが、天文普及活動に精力を傾けられていた黒田さんによって、いろいろ経験することや知識を得ることができました。

日食ツアーを始めとする各種ツアーや、最先端の研究をされている専門家の方の講演ももちろんですが、普段の友の会例会でもそのポリシーと情熱は貫かれていたと感じています。また、特に天文に興味を持った初心者への心遣いはとても厚かったと思います。

数年後、2m望遠鏡を西はりま天文台にどの構想を伺いました。その時は素晴らしいお話だけけれど、実現は難しいのではないかと感じていました。だって、私が物心ついたときから日本で最大の望遠鏡は188cmときまっていたのですから。

ところが並外れた行動力で、あれよあれよと計画が進み、なゆたが研究と公開の望遠鏡として完成をむかえました。

そして、一般の方への国内最大の望遠鏡（なゆた）を使用しての研究を呼びかける「@siteプログラム」という、とても素晴らしいアイデアをうちだされました。残念ながら大きな実は結びませんでした。一般の人にも最先端の研究をという今までにない取り組みでした。まさ

に天文学の裾野を広げることをいつも意識されていた黒田さんならではの発想だったと思います。

今回、日本天文学会から第一回天文教育普及賞を受賞されたとのこと。おめでとうございます。大変喜ばしいことですが、これまでの実績を見ると当然のこととして受け止めています。そしてこれからも我々をご指導いただけることを願ってやみません。

(べつぎ ひさかず・友の会会員)



当時の例会では翌日行事として色々なイベントがありました。

知情一如

石岡 俊人

このたび黒田武彦名誉顧問が、第1回日本天文学会の天文教育普及賞を受賞されました。誠におめでたいことで、現在の職員としても、在職中にご一緒させていただいた者としても、喜びに堪えません。

黒田さんは当天文台を中心に非常に幅広い活動を展開されたわけですが、その活動を通じて伝えたかったことは、天文学のおもしろさと同じでした。天文学の対象となる天体は、いずれも非常に遠くにあります。直接、手に取って調べることができません。届くのは、ほん

の微かな光などのわずかな情報です。しかしながら、大きな望遠鏡を使ってたくさんの光を集め、詳しく分析し正しく推論すると、さまざまなことがわかっていきます。そして、最初は不思議でなぜわからなかったような現象が、どのようにして起こっているかわかっていったりするわけです。さらに、大型望遠鏡で対象となる天体を自分の目で見てもらいながら話をすることで、多くの方に興味を持ってもらえる形で宇宙のおもしろさを伝えることができる。これが、大型の望遠鏡が設置されている公開天文台を作った理由とのことでした。

しかし、実際の活動の実施にあたっては、また別のことが重要だったように思います。それは、黒田さんが関わったどのイベントでもわかることですが、ここでは2009年7月22日の日食ツアーのことを書いてみましょう。このときの日食は、中国南部から日本の南西諸島から硫黄島近くの海上にかけて見ることができたもので、兵庫県立大学のアカデミックツーリズムの一つとして、大型の船舶上での観察ツアーが企画されました。このツアーでは、日食の観察のみならず、ツアー中に非常にたくさんの企画が実施され、参加者には大いに楽しんでいただけたものと思います。それほど多くの企画が実施されたのは、すべての参加者に楽しんでいただきたいという、黒田さんのお気持ちがあったらこそと思います。

宇宙のおもしろさを伝えるという知の部分とすべての方に楽しんでいただきたいという情熱が合わさって、他にはいない天文教育普及の実行者を生んだということだと思います。私など及ぶべくありませんが、黒田さんが指し示した方向性を、いくらかでも進めることができればと願ってやみません。

(いしだ としひと・副センター長)

★1日(金) 学部4年生の山下さん、この日は大事な卒業研究発表会。伊藤センター長はじめ、大勢のスタッフや学生も会場に駆けつけ無事終了。

★7日(木) 午後から年度末の天文台運営委員会が開催される。外部委員をお招きし、スタッフと一丸となって天文台の発展に知恵を絞る。

★8日(金) 天候監視用の感雨センサーなどのメンテナンス業者による作業が入る。パール研究員が対応。

★9日(土) 友の会の例会の日。本田准教授、小山田専門員、戸塚研究員が進行と運営を行う。またなゆた望遠鏡の操作は加藤研究員が担当。

★11日(月) この日は休園日。筆者と大島研究員は、長い間放置されていた工具用ラックを工作室へと移動。またこの日から専門業者によるなゆたエンクロージャーのメンテナンスが始まる。大島研究員と戸塚研究員が対応。大掛かりな改修工事のため、この晩のなゆたでの観測は中止。

★12日(火) 11日に引き続きエンクロージャーのメンテナンス。加えて60cm望遠鏡のメンテナンス作業も入った。パール研究員が対応。

★14日(木) 日本天文学会の年会在東京で開催。黒田名誉顧問が日本天文学会の第1回天文教育普及賞を受賞。おめでとうございます。年会には伊藤センター長、本田准教授、高橋特任助教、加藤研究員、齋藤研究員と、修士の学生2名が出席。

★18日(月) なゆた望遠鏡のメンテナンス作業が始まる。期間は22日まで。大島研究員とパール研究員が対応。しばらく前から発生していたシステムエラーについての原因調査が行

われた。また望遠鏡の重量バランスの調査も行われた。現状のバランスはそれほど悪くはないようで一安心。

★23日(土) この日の観望会はこの時期としては珍しく100名の大入り。石田副センター長と小山田専門員、大島研究員が対応。しかし天候不順のため2天体しか見れず、残念。

★24日(日) この日は神河町民温水プールのメンバーが来訪し、天文工作と昼間の星の観望会に参加。鳴沢専門員が対応。また明星高校(大阪府)の生徒さんが実習のために来台。本田准教授、高橋特任助教が対応。天文学に興味があり積極的に質問してくれる生徒さんが印象的だった。

★27日(水) ベトナムからラム氏が訪問。現地の大学の物理学の教授で、現在日本の大学の協力でベトナムに新天文台を建設するためのプロジェクトを進行中とのこと。西はりま天文台へも視察で訪問。二国間の協力関係がより深まることを期待したい。この日は加えて、樟蔭高校(大阪府)の生徒さんが実習のため来台。実習は28日まで。筆者と齋藤研究員が対応。あいにくの天気のため星を見ることはできないと思われたが、最後に雲の切れ目を突いて一つ観望できた。

★29日(金) 三国丘高校(大阪府)の生徒さんが実習のため来台。パール研究員が対応。

★30日(土) 天文台付近に雷接近。落雷による望遠鏡や電子機器への影響に備え、大島研究員とパール研究員が急いで通信ケーブルを抜くなどの対応に奔走。特に被害もなくホッと一安心。伊藤センター長が日本天文学会の柴田会長、福江大阪教育大教授と共に黒田顧問宅訪問。





西はりま天文台 インフォメーション



5/11

第174回 友の会例会 ※友の会会員限定

日時：5月11日(土) 18:30受付開始、19:15～24:00
内容：天体観望会、テーマ別観望会、クイズ、交流会など
テーマ別観望会：未定
費用：宿泊 大人500円、小人300円

※今年度は友の会から宿泊料金の助成があり、シーツ代込の料金です。

朝食 500円(希望者のみ)

申込：申込表(右表)を参考に、下記の方法でご連絡下さい。

電話：0790-82-3886 FAX：0790-82-2258

e-mail：reikai@nhao.jp (件名を「May」に)

締切：グループ棟宿泊、日帰り 5月4日(土)

家族棟宿泊 4月13日(土)

| 例会参加申込表 | | | |
|-------------|-------------------|-----|-----|
| 会員No. | () | 氏名 | () |
| 宿泊棟 | 家族棟ロッジ / グループ用ロッジ | | |
| | 大人 | 小人 | 合計 |
| 参加人数 | () | () | () |
| 宿泊人数 | () | () | () |
| シーツ数 | () | () | () |
| 朝食数 | () | () | () |
| 部屋割り | 男性 | 女性 | |
| | () | () | |
| グループ別観望会の希望 | () | | |

直前のお申し込みや、キャンセルは控えていただくようお願いいたします。

お食事のお申し込みについては、3日前までは無料、2日前20%、前日50%、当日100%のキャンセル料が発生します。

5/4

アクアナイト 2019

アクアナイト2019では、天文学の最新研究についての講演会と世界最大級の公開望遠鏡「なゆた」での観望会を行います(悪天候時は解説となります)。今回は講演会のご案内です。

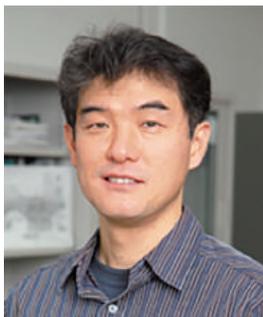
日時：5月4日(金・祝) 申込み・参加費 不要

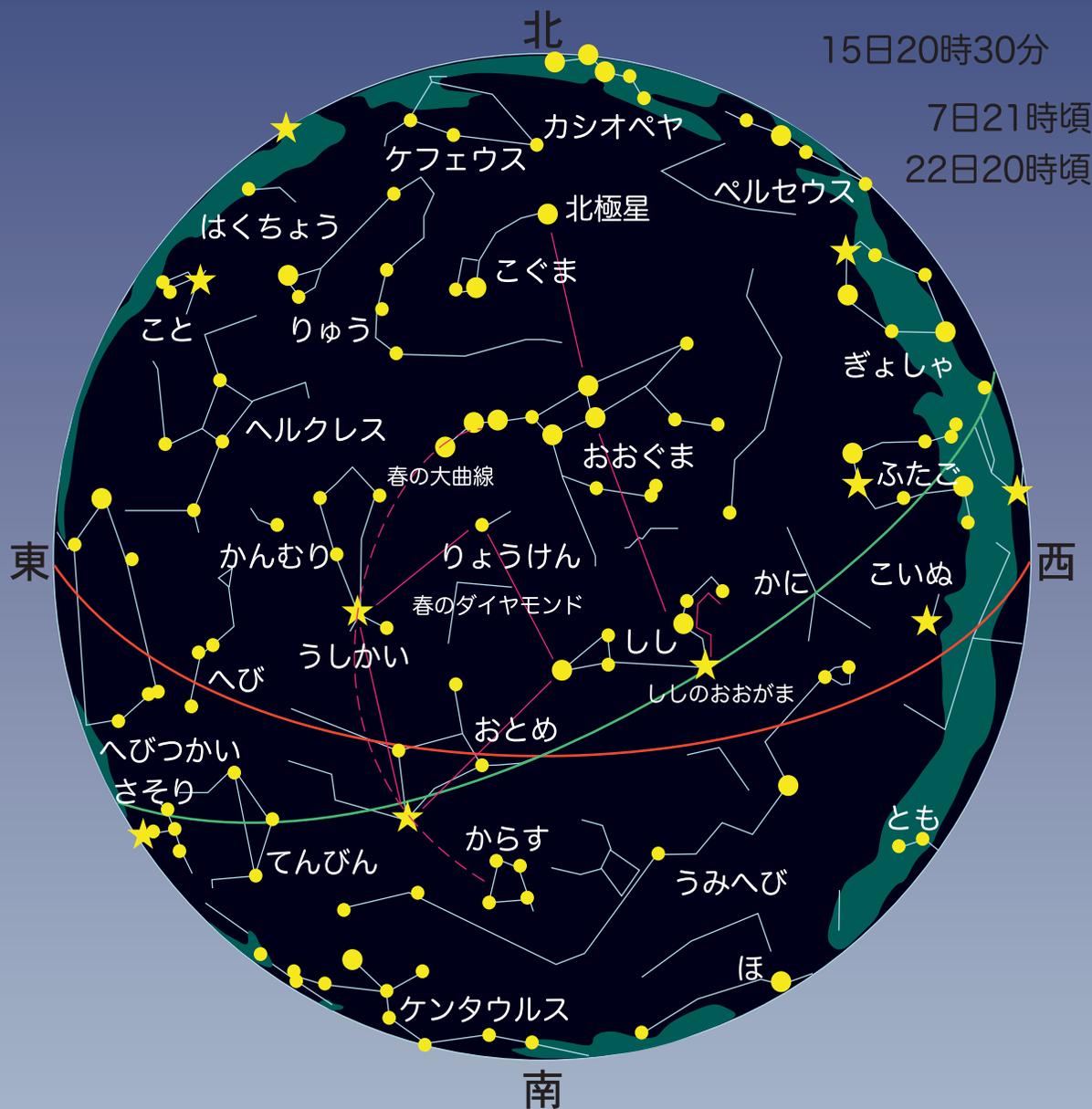
申込み・参加費：不要

天文講演会：「ホーキング博士の冒険：宇宙のビッグバンからブラックホールへ」

講師：石橋明浩氏(近畿大学理工学部理学科)

講演内容：「宇宙の起源」から「ブラックホールと情報」まで、ホーキング博士は物理学の根本にかかわる問題に生涯にわたって取り組み続けました。博士の研究は、まさに宇宙の仕組みを解き明かすための「冒険」とよべるものでした。その冒険の一端をご紹介します。





15日20時30分

7日21時頃

22日20時頃

5月のみどころ

いよいよ元号が変わります。「令和」の"令"は「令月（れいげつ）」から取られたものだそうです。令月には「何事をするのにもよい月。めでたい月。よい月」という意味と「陰暦2月」という意味があるそうです。さて、気候も良くなってきました。天文台では文字通り「目に青葉、山ホトトギス」。夜だけがみどころではありません。さて、皆さんならなんと続けますか？

今月号の表紙

「授賞式」

日本天文学会の柴田会長が黒田さんのご自宅を訪問し、日本天文学会教育普及賞を授与されました。大阪教育大学の福江さんと伊藤センター長も同行しました。

今回の受賞に際し、応援をいただいた皆様、ありがとうございました。

撮影日：2019年3月30日

撮影者：伊藤 洋一